

2026年8月米雇用統計

<米8月雇用統計概要>

・米8月雇用統計における非農業部門雇用者数は、前月比+162千人と市場予想の+55千人を大きく上回った。また、過去2カ月分についても、6月分は+20千人から+31千人、7月分は▲23千人から+21千人と合計55千人上方修正された。

・内訳をみると、レジャー・接客業が62千人増と全体をけん引しており、2カ月連続の減少から反転して回復した。夏休みの行楽需要が影響したとみられる。そのほか、前月減少の大きかった地方政府の教育部門は42千人の増加に転じた。一方、金融、情報の部門では、AIによる雇用代替の影響がみられ、合計34千人の雇用が失われた。

・失業率については、4.1%と前月から横ばいで推移した。団塊世代の退職やトランプ政権による移民取り締まり強化等による米国内の移民労働力の減少を背景に失業率は低水準での推移が続いている。

・平均時給については、前月比+0.3%となった。前年比では+3.1%と2021年以来の低い伸びにとどまった。

<米8月雇用統計結果>

主要項目	7月分	8月分	市場予想(8月分)
非農業部門雇用者数(千人)	21(修正前:▲23)	162	55
失業率(%)	4.1	4.1	4.1
労働参加率(%)	61.4	61.6	61.5
平均時給(前月比)(%)	0.2(修正前:0.1)	0.3	0.3
平均時給(前年比)(%)	3.2	3.1	3.1

【米国雇用統計について】

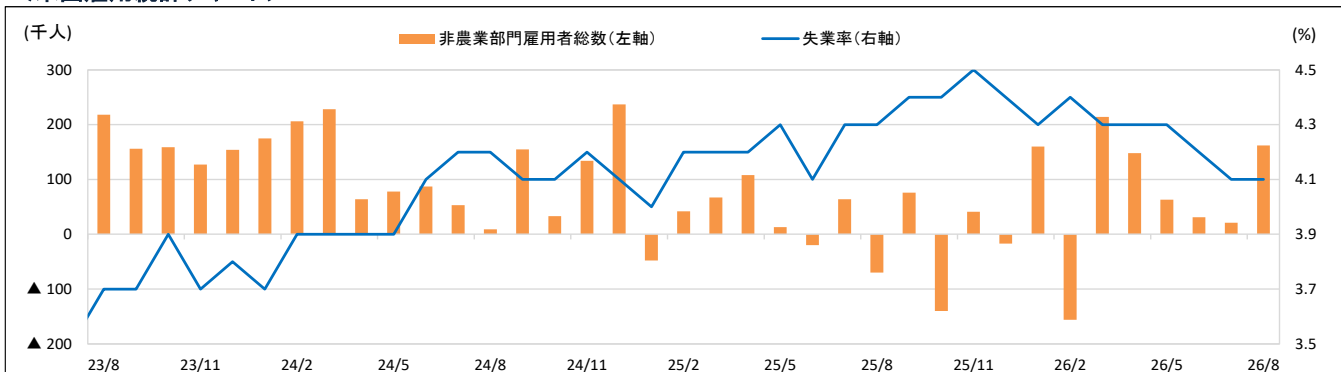
●米国雇用統計とは、米国雇用の情勢(失業者数や就業者数など)を調査した統計で、最も重要な経済指標の一つ。原則として調査翌月の第1金曜日に発表される。指標は十数項目あるが、特に「失業率」と「非農業部門雇用者数」が注目されている。

●FRBは、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標として掲げており、金融政策の動向を見極めるうえで「米雇用統計」は重要視される。

<項目別の雇用者数増加幅(単位:千人)>

項目	前回結果	今回結果	項目	前回結果	今回結果
鉱業・木材伐採	▲3	3	専門・事業サービス	15	10
建設	18	22	教育・ヘルスケア	12	29
製造	14	16	レジャー・宿泊	▲21	62
貿易・運輸・公益事業	34	16	政府	▲50	35
情報	5	▲23	その他サービス	8	3
金融	▲11	▲11			

<米国雇用統計チャート>



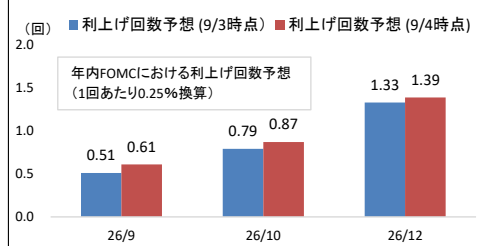
<相場の反応>

・今回の雇用統計では、雇用環境の底堅さが確認され、FF金利先物市場では9月利上げ回数予想は0.61回(1回あたり0.25%換算)、2026年末までには1.39回となった。

・金融市場では9月利上げ観測が再び強まったものの、次回のFOMCの政策判断において足許ではFRB高官から物価の動向を注視する発言がみられており、11日に公表を控える米8月CPIに注目が集まる。

<市場動向>

	9月3日	9月4日	前日比
ドル/円相場(円)	155.81	156.26	+0.45
ダウ平均株価(ドル)	53,686.11	53,414.25	▲271.86
S&P500指数(ポイント)	7,747.71	7,718.60	▲29.11
NASDAQ総合指数(ポイント)	26,584.06	26,506.99	▲77.07
米2年国債利回り(%)	4.34	4.37	+0.03
米10年国債利回り(%)	4.77	4.78	+0.01



※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。